

論説、看護の未来、助産学 1

2010年10月、IOMとRobert Wood Johnson財団が「看護の将来：変革と改善」という報告書を発表した。報告書では上級診療正看護師の一つである認定看護助産師に関する議論が特に取り上げられている。「看護の将来」へ向けて変容を遂げる上でこの報告書を活用するために3つのキーポイントを確認した。キーポイント1は「看護師と助産師はこれまでの教育と訓練から得たスキルを十分に発揮する必要がある」ということである。キーポイント2は「報告書の勧告を実行する際には患者中心の質のよいケアを提供しなければならない」ということである。キーポイント3は「われわれの目標は女性と家族の健康を向上させることで、助産の専門性の拡大ではない」ということである。報告書には「看護の将来」に記載された方策をどのように実施するかということについて述べられている。我々はヘルスケアシステムを変革し女性とその家族に可能な限り最善のケアを提供する必要がある。

The Future of Nursing: A Midwifery Perspective
Frances E. Likis, Editor-in-Chief
J Midwifery Women's Health. 2012 Mar-Apr;57(2):109-110

予防接種、CDC 予防接種諮問委員会、編集委員長報告 4

アメリカ看護助産師学会は成人に対する免疫計画を改善するための予防接種諮問委員会に加わった。ワクチンで予防できる疾患のリスクを低下させるためには成人期の継続的ワクチン接種が必要である。成人は予防接種を受けられない乳児への感染の拡散を防ぐためにもワクチンを受ける必要がある。Tdap やインフルエンザワクチンも妊婦にも接種するよう勧告されている。助産師は予防接種を女性に勧め、ワクチンに関する教育を提供する責任がある。CDC のウェブサイトにはワクチンと予防接種に関するセクションが設けられている。ワクチン接種は女性の健康ばかりでなく、家族と地域社会の健康にもメリットがある。

Immunizations for Women: A Midwifery Responsibility
Frances E. Likis, Editor-in-Chief
J Midwifery Women's Health. 2012 Mar-Apr;57(2):111

帝王切開、EQ-5D、分娩様式、満足度、産褥期の健康、VBAC 6

最近のNIHの帝王切開後の経膈分娩、即ちVBACに関するコンセンサス会議で、VBACに関する情報を提供し、それに基づいてVBACの選択を促す戦略が提唱された。この研究はオーストラリアの帝王切開後の分娩計画に参加した女性の産褥期の経験に焦点を当て、計画的VBACの経験について情報を収集することを目的とした。

分娩6～8週で帝王切開後の分娩を経験した165名の女性を対象に10ポイントのvisual analog scaleを用いて、自らの分娩の経験について評価、産褥期の健康に関わる問題について情報の収集、今後同様な分娩方法を選択するか否かという意識調査を行った。

分娩様式の違いにより満足度のスコアに有意差が認められた。平均スコアは自然経膈分娩で8.86、選択的反復帝王切開では7.86、緊急帝王切開では6.71、器械的経膈分娩では6.15という結果であった。自然経膈分娩の平均満足度と選択的反復帝王切開の平均満足度は器械的経膈分娩や緊急帝王切開よりも有意に高い値を示した。器械的経膈分娩と緊急帝王切開を経験した女性においては産褥期の健康上の問題を指摘するものも多く、将来、同じ分娩様式を選択すると考えているものは少なかった。

分娩様式は産褥期の満足度、産褥期の健康状態、今後も同じ分娩様式を選択するか否かに関わる重要な決定因子であることが明らかとなった。臨床家、研究者、政策立案者は、計画的VBACにより自然経膈分娩を達成できる機会を上昇させるための分娩管理を行う必要がある。

The Importance of Mode of Birth After Previous Cesarean: Success, Satisfaction, and Postnatal Health
Allison Shorten, PhD, MS, RN, RM, Brett Shorten, MCom
J Midwifery Women's Health. 2012 Mar-Apr;57(2):126-132

電子的胎児モニタリング、臨床的意義、診断精度、編集者への手紙 16

Murray らは胎児心拍モニタリングに否定的な編集長や Grimes らの主張に異議を唱えた。Xu らは悪い結果に先行する胎児心拍パターンとよい結果に先行する胎児心拍パターンとは区分できると述べている。Fraser らや Xu らの研究は従来の方法とその代替の方法でモニターした胎児を比較するためにデザインされた研究ではない。胎児心拍モニタリングで胎児が危険な状態にあることを示す陽性予測値は低く、偽陽性率は高いのが問題である。

Chen らは出産証明書のデータから胎児心拍モニタリングを検討しているが研究方法に問題がある。出産証明の臨床データはしばしば精度や信頼性が疑問視されている。Chen らの研究は画一的な継続的分娩時の胎児心拍モニタリングの疑問を否定するものではない。不必要な手術的経膈分娩などのリスクを考慮せずに胎児心拍モニタリングを評価することは間違っている。

モニタリングで悪い兆候が認められた児が元気に誕生した場合、医学的評価や介入が正当化されることにもなる。胎児心拍モニタリングなどの否定的な面を見ずに優れたものと思込むことは正しいことではない。一律に胎児心拍モニタリングを行うことは選択肢の幅を狭め女性の出産経験に弊をはめてしまうことになる。

Costs and Benefits of Electronic Fetal Monitoring

Patrick Thornton

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2012 Mar/Apr;41(2):160-162

後期早産児、体温調節、沐浴、バスタブ入浴、スポンジ入浴、新生児看護、新生児合併症 18

バスタブ入浴、またはスポンジ入浴前後に 3 時点で生後 24 時間以降の後期早産児の体温を比較した。後期早産児はスポンジ入浴よりバスタブ入浴の方が体温に有意な改善が認められるのではないかと仮定し検討した。大規模な都市部の教育病院で妊娠 35 週 0 日～36 週 6 日で誕生した後期早産児 100 名を対象に無作為対照試験を実施した。親から同意を得て、50 名はスポンジ入浴群、50 名はバスタブ入浴群に無作為に分けた。新生児の体温は入浴 10 分前、入浴 10 分後および 30 分後に測定した。

バスタブ入浴の児はスポンジ入浴の児に比較し体温の変動が少なく、入浴から 10 分および 30 分経過したとしても体温は高いレベルに維持された。研究の結果は、バスタブ入浴を試みた後期早産児は体温の喪失が少なく入浴後も高い体温を維持するという仮説を支持する結果が得られた。

Tub Bathing Improves Thermoregulation of the Late Preterm Infant

Cynthia Loring, Katherine Gregory, Barbara Gargan, Valerie LeBlanc, Debora Lundgren, Jean Reilly, Kristin Stobo, Cathleen Walker, and Claire Zaya

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2012 Mar/Apr;41(2):171-179

抑うつ、疫学、運動、精神衛生、母集団、心理学、妊娠 27

妊婦において、客観的に評価した身体活動と抑うつ症状との関係について調べ、これらの関係をより正確に理解するために必要な情報を提供しようと試みた。2005～2006 年において行われた全国栄養調査からデータを収集し横断面的研究を行った。141 名の妊婦を対象に 7 日間にわたって ActiGraph 加速計の装着を依頼した。また、抑うつの状態を評価するために患者健康質問票 -9 への記入を依頼した。

19%以上の妊婦がある程度の抑うつ症状を経験しており、抑うつ症状を伴わない妊婦と比較し身体活動の低下が認められた。妊婦では身体活動と抑うつ症状の間には負の相関が認められた。看護師は合併症を伴わない妊婦に身体活動を促す必要がある。

Physical Activity and Depression Symptoms among Pregnant Women from the National Health and Nutrition Examination Survey 2005–2006

Paul D. Loprinzi, Elizabeth M. Fitzgerald, and Bradley J. Cardinal

J Obstet Gynecol Neonatal Nurs. 2012 Mar/Apr;41(2):227-235